

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103854
法人名	医療法人ピハーク 藤原胃腸科
事業所名	グループホーム・アショカ
所在地	松山市南吉田9 6 4 番地 1
自己評価作成日	平成26年10月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・夜間入浴体制をとっており、家庭と同じような生活の流れで、夜お風呂に入ることができる。 ・夜間入浴体制のため、日中の支援が充実し、外出に行ったり、買物に行ったり、喫茶店に行ったりといろいろな活動ができる。 ・母体が病院のため、Drが24時間体制で連絡、対応してもらえる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>介護計画には、ご本人の「楽しみ」を採り入れるように工夫されている。ご本人やご家族の希望や思いと職員の気付きをもとに、「私らしさ」や「心身の力の発揮」等、センター方式の5つの視点に沿って「立案シート」を作成し、職員で話し合っており、個々の担当者が作成している。担当者は、ご家族に希望を聞き取り、計画の説明も行っている。月1回職員で話し合っておりモニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しされている。</p> <p>管理者は、この1年「職員の意見や提案を採り入れ実践する」ことに力を入れて取り組まれた。利用者が「肉が大好き」と知った職員の提案で、庭でバーベキュー大会を行ったり、そうめん流しも職員の提案で場所を事業所の庭に移して行われた。又、職員は、外出先等も利用者から希望を聞き、自主的に下見をして提案したり、2ヶ月に1回行われる法人内研修や外部研修に積極的に参加して、事業所内で共有して取り組みをすすめておられる。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・アショカ

(ユニット名) 月輪

記入者(管理者)

氏名 橋本 和幸

評価完了日 平成26年 10月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は地域密着型サービスを踏まえた理念にはなっていないため、今後理念の再作成が必要。	
			(外部評価) 「あなたの笑顔が見たいからあなたらしさを大切に愛ある暮らしを支援します」という事業所理念を事務所に掲示し、さらに行動指針がユニット毎に作られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議などを通して、地域の行事に参加したり、アショカの夏祭りでは、地域の方たちに参加してもらっている。	
			(外部評価) 月1回、地域の方がボランティアで中庭の草刈をしてくれている。事業所は、この春に開設10周年を迎え、管理者の発案で中庭で餅まきをされた。近隣の方にもポストイングして案内し、餅つきから袋のシール貼りまで、地域の方達やご家族、利用者、職員が協力して準備された。当日は30名程の参加があり、ウッドデッキから利用者也餅まきをされた。夏祭りの際にも、地域の方達やご家族の手伝いがあり、利用者は浴衣を着て今年は初めて売り子にもなり、地域の方や子ども達と交流された。年2～3回、小学生の訪問があり、利用者やゲーム等をしてふれ合っている。管理者は「地域の方にはお世話になっており、場所・人・専門性を活かしてできることを探り、相互の協力関係を築いていきたい」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症の勉強会を行ったり、同法人のデイサービスで地域フォーラムや認知症カフェの開催もしている。 また、近くの小学校の授業でバリアフリーの勉強の為に場所の提供もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 防災マップの作成時は、地域の避難道や作り方、徘徊高齢者への対応では対応方法や協力など、地域の方の協力を得て、サービス向上に活かしている。	さらに、会議内容によっては、複数のご家族の参加を働きかけたり、利用者や職員も参加して、発言の機会を作ってはどうか。又、参加者の意見等もお聞きしながら、事業所の専門性や特性を活かして、地域のコミュニティの拠点になる活動等にも工夫されてみてはどうか。
			(外部評価) 会議は、区長や民生委員、元公民館長、婦人防災クラブ、自主防災組織の方等、地域の方が多く参加されている。ご家族は、代表の方が1名参加されている。会議時には、利用者の状況や取組み等について報告し、意見をうかがっている。現在、消防署からアドバイスをいただいたり、会議参加者の意見を採り入れながら、会議を活かして防災マップ作成に取り組んでおられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 松山市の方とは運営推進会議の参加の時に情報交換を行ったり、不明な点があれば電話連絡し連携を図っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当者から議題に沿ったアドバイスや、ノロウイルスやインフルエンザ等、感染症の予防対策について情報提供がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的に玄関の施錠は日中はしていない。また、何が拘束に当たるのかを考え、研修などへも参加し理解出来ている。見守りの強化などにより拘束なく過ごせている。	
			(外部評価) 日中は、玄関に施錠せず、開閉時にチャイムが鳴るようになっている。以前、一人で出かけていく利用者があった際には、ご本人の顔写真と連絡先をご家族の了解のもと、近所の商店2軒に渡し、見かけた時は連絡してもらえるようお願いした。運営推進会議の後、地域の参加者にその利用者の顔を覚えてもらえるよう、面会してもらったこともある。時に、利用者の行動を制限するような言葉が聞かれると、管理者はその場で職員と話し合ったり、利用者体験をする機会を作って指導されている。ベッドから立ち上がる際、転倒の恐れがある利用者には、床にカーペットを敷き、布団で対応されていた。又、ベッドの足元にセンサーマットを使用する場合もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が起こらないようにスタッフは研修などに参加し学ぶ事が出来ている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) スタッフ全員が制度について把握出来ていないため、研修への参加を促している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時や事前の説明時に家族が困っている事などを聞き、今後起こりうる可能性も含めて説明し、理解してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議では家族や地域の方、役所の方々に参加してもらい、意見交換を行い運営に反映できるように努めている。	
			(外部評価) ご家族の来訪時には、日々の個別記録に沿って日々の利用者の暮らしやケア等の様子を報告されており、ご家族に伝わりやすいよう、その時々を写真を貼っている。系列のグループホームと合同で月1回、便りを作成しており、法人ホームページでも見ることができ、遠方のご家族は楽しみにされている。行事ごとがあればご家族にも案内しており、又、個別に行う誕生会は、ご家族も一緒にお祝いされている。年2回の家族会時は、ご家族だけで話し合う時間も持っており、運営推進会議へ参加する代表者を決めたり、日々のケアへの感想等も話してくれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			管理者はスタッフと常日頃からコミュニケーションを取り、スタッフからの意見が出やすい様な環境作りを行っている。代表者へは、スタッフから出た意見を管理者から伝えている。	
			(外部評価)	
			管理者は、この1年「職員の意見や提案を採り入れ実践する」ことに力を入れて取り組まれた。利用者が「肉がお好き」と知った職員の提案で、庭でバーベキュー大会を行ったり、そうめん流しも職員の提案で場所を事業所の庭に移して行われた。又、職員は、外出先等も利用者から希望を聞き、自主的に下見をして提案したり、2ヶ月に1回行われる法人内研修や外部研修に積極的に参加して、事業所内で共有して取り組みをすすめておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			スタッフの声に耳を傾け、スタッフが働きやすい環境作りを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			管理者、ユニット長と相談しながら適切な研修に参加できるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			相互研修や実践者研修などにも参加し、他事業所の方と情報交換ができる場に行ったり、法人内でも勉強会があるため、法人内のスタッフとも情報交換ができる場がある。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人が困っている事は直接は聞く事はないが、話しの中で間接的に聞くことで、困っていることの把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			サービス利用前に家族から困っていることなどを聞き、ニーズを把握し、今後起こりうる可能性も含めて話しをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			必要としている支援を家族や本人と話し合いながら支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			本人の出来る事をも見つけ、スタッフと入居者さんが一緒に行う事によって家族のような関係になるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			行事の際には家族さんへ声掛けをし、共に楽しんでいただけるような機会を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			友人や近所の方と外出したり、家族へ電話をし、関係を継続できるよう気をつけている。	
			(外部評価)	
			遠くから訪ねて来られたご家族と一緒に写真を撮って差し上げることもある。以前から愛読している「文芸春秋」を買いに、毎月職員が付き添って支援されている。昔よく行った松劇や長浜までお墓参りに行きたいという方の希望に沿って、出かけられるよう計画を立てている。宝塚歌劇見物を希望する方があり、管理者は、ご家族等の協力も得て計画をすすめることを考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	その日、その時の人間関係の様子を見ながら座る位置などを考慮し、楽しみを共有できるように工夫している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	サービス利用が終了した家族へは行事の声掛けをしているが継続的な声掛けは出来ていない。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	日々の生活の中でのコミュニケーションの中で本人のしたい事、行きたい所などを引出し、その人らしさを見つけ、本人の希望を把握できるように努めている。
			(外部評価)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	入居時には家族に基本情報シートを記入してもらい、本人の生活歴の把握に努めている。 また、家族や友人の面会があった時には、話を聞き把握できるようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	一人ひとりの状態を把握できるように申し送りを受け1日の過ごし方をスタッフ間で話し合っている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			家族、本人に臨みを聞き、月に1回のカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画には、ご本人の「楽しみ」を採り入れるように工夫されている。ご本人やご家族の希望や思いと職員の気付きをもとに、「私らしさ」や「心身の力の発揮」等、センター方式の5つの視点に沿って「立案シート」を作成し、職員で話し合っ、個々の担当者が作成している。担当者は、ご家族に希望を聞き取ることや、計画の説明も行っている。月1回職員で話し合っ、モニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別記録はケアプラン、ケアポイントに添っており、次回のケアプランに活かせるように工夫している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			現在の所、行っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ピアノボランティア、手芸、草挽きボランティア、秋祭りの神輿入れ、生石小との交流など、心身の力を発揮できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同法人の病院を受診する事が多いが、家族が希望する場合や同病院が専門外の場合は専門の病院へ受診している。	
			(外部評価) ご家族の希望もあり、現在は利用者全員が母体病院からの往診を受けており、診察結果等は、ご家族に電話で報告されている。今年度から年1回、利用者の健康診断が実施されている。専門医の受診は、ご家族や職員が付き添って支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者の状態変化があった場合は看護師に相談したり、情報交換している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院先の医療機関とは、直接情報交換をしたり、家族を介して情報交換をしたりしている。退院時期についてもDr、医療機関、家族と相談しながら決めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態の変化があった場合は、Dr、家族、看護師、スタッフが集まり、家族の望む支援・アショカで出来る支援を話し合い今後の方向性を決めている。	
			(外部評価) 事業所では、この1年間に3名の方の看取り支援をされている。居室を居間に続く和室に移し、日常を継続しながらご本人の安心・安楽に努め、職員は頻回な声かけや思い出話等をして支援された。利用者から「葬儀に行きたい」と希望があり、参列できるよう支援されたこともある。最期には、利用者と職員が和室に集まり、ご家族も一緒にご本人がよく歌っていた「もしもし、亀よ」や「炭坑節」を歌って差し上げ、ご本人のお顔が少しほころんだようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的研修は行っているが、全員が参加は出来ないため地域や消防、法人内研修などで順次参加できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防の立ち合いのもと、ほとんどのスタッフ、入居者が避難訓練へ参加出来ている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、夜間の火災や地震等を想定した避難訓練が実施されている。地域の防災訓練には管理者と防火管理者が参加している。運営推進会議時、事業所を地域の避難場所として提供したり、備蓄の提供等、協力できることを伝え、相互の協力体制作りを努めている。現在作成中の防災マップは、避難場所になっている中学校まで、3通りの避難ルートを作っており、利用者と一緒に行く等して避難方法等について検討を重ねているところである。いざという時には、近隣6軒の方が駆けつけてくれるようになっており、次回の避難訓練時は、近隣の方にも案内し「事業所内を知ってもらえるよう取り組みたい」と話しておられた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自分たちが入居したら・・・と考え、自分たちがされてくない声掛けや声の大きさなどを考慮し、1人ひとりが理解できるような言葉かけを工夫している。	
			(外部評価) 管理者は、日頃から「自分に置き換えて、されて嫌なことはしない」「利用者本位で行動する」よう職員に話している。職員は、トイレの声かけや誘導時は周りの方に分らないよう配慮に努め、安全を確認してトイレ使用中は外で待つようにしている。大正琴が得意な利用者には、ご家族の協力を得て楽器を持ち込んでもらい、練習したり、皆の前で披露する機会を作っている。元華道の先生には、事業所に飾るお花を活けてもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフ主導にならないように本人には選択できる声掛けを工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			その日の本人の状態を考慮し、なるべくスタッフ主導に ならないように希望を聞き支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	
			本人の着たいものを着られるように声掛けし、夏祭りでは 浴衣を選んでおしゃれを楽しめるように工夫している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			週に1度は調理の日を作り参加できるように工夫しているが、 食材の取り分けなどはあまり参加できていない。	
			(外部評価)	
			調理専門の職員が1ヶ月毎にユニットを移動して、一方のユニットで2ユ ニット分の食事を作っている。献立は、利用者の希望も採り入れて1週 間ずつ職員が交代で立てている。朝食は、週1~2日は洋食も準備し、 選べるようになっていく。食卓は、利用者の関係性等を考慮して2つに 分けている。調査訪問時、職員は利用者の間に入り、食事の手助けを しながら同じものを食べていた。職員は食事のペースがゆっくりの利用 者に合わせて、食後もお茶を注ぎ足して談笑する等、雰囲気作りにも配 慮されていた。利用者は、野菜の下ごしらえや盛り付け、配膳や下膳、 食器洗いや食器拭き等、個々のできることを行えるよう支援されている。 又、日曜日を「調理の日」と決め、夕食の主菜を利用者と一緒で作っ ている。利用者の中には、嚥下状態のこともあり、ご家族と相談して週1回 市販のソフト食を利用している方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	
			水分量などが少ない方は記録を残し、好きな飲物を見つけたり 食べやすい工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
			義歯を外し口腔ケアを行い歯ブラシやクレンジングを使用し 義歯は洗剤につけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄に合わせ誘導したり、排泄のパターンを知る事で失敗を少なくしたりしている。	
			(外部評価) 日中は、トイレで排泄できるよう支援されている。トイレの場所を迷う利用者が一番分かりやすい色と言葉を調べて、トイレの戸に赤色ビニールテープで大きく「トイレ」と示したユニットと、青色ビニールテープでトイレの戸と手前の床に大きく「便所」と示したユニットがあった。男性用便器を備えているが、現在は使用する利用者はいないようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 薬だけに頼らず毎日、適度に水分を摂ってもらったり運動できるように声掛けし自然排便できるように支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間入浴体制をとっており、入浴は出来るだけ本人の希望を聞き、希望に添った入浴のタイミングにしている。	
			(外部評価) これまでの家庭生活の習慣を踏まえて、夜間入浴を基本に支援されている。管理者は、夜間に入浴することで「日中は、いろいろと活動できる」と話しておられた。ご本人の希望で、現在2人の利用者は昼間に入浴している。毎日入りたい方には、声をかけて希望に沿い、又、1人で入りたい方には、職員が脱衣所等で声をかけたり見守りながら支援されている。重度の利用者も職員が二人で介助して浴槽で温まれるよう支援しているが、安全を考慮してシャワー浴の場合もある。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠気の強い時などは本人の安心できる場所(居室や和室など)で休息をとれるようにしたり、夜間不眠だった方は朝ゆっくり休んでもらったりしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全部の薬を覚えるのは難しいため、薬についての資料を用意しそれを見れば分かるようにしている。 また、新しく服薬を開始した時には院長と連携し、変化がないかなど連絡している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の力を見極め、何が出来るのか常に考え、スタッフが出来る事、出来ないことを理解し、役割を見つけ支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車が2台あるため外出の機会を多く取り入れ、買物なども基本的に一緒に行っている。 散歩も近くの公園やスーパーまで行けるように支援している。	
			(外部評価) 職員と一緒に事業所の周りや近くの公園を散歩している。居室で過ごす事が多い利用者には、買い物にお誘いし、ご自分でお菓子を選べるよう支援されている。ドライブがてら季節の花見物やブドウ狩り、せせらぎ亭での魚釣り、回転寿司やレストラン、喫茶店にも利用者の希望等に沿って出かけている。調査訪問日の午後は、利用者からの希望で、船で鹿島に渡るため出かけて行かれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持っている方は、現在いないが外出時は本人が支払いできるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人より希望があれば電話できるように支援している。 郵便物が届くと、必ず連絡し本人に代わるようにしている。 携帯電話を持っている方も居られ家族と連絡をとっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 中庭が見える所にソファを置いたり、季節のものをリビングに飾り付けしたりして季節を感じられるようにしている。 不快な思いをしないように座る場所を考慮している。	
			(外部評価) 事業所は、平屋造りで玄関先には、ビオラ等が咲くプランターが並んでいた。居間兼食堂は、広々として開放感があり、大型テレビの前には、中庭が見える位置にソファを長くつなげて配されていた。アイランド型キッチンで仕切りがなく、利用者も台所に入出しやすく、冷蔵庫に入れたご自分の飲み物等を出して飲む方もおられる。中庭には、桜等の庭木や草花が植わり、御大師様の石像があり、ウッドデッキが整備されている。1日1回は外気に触れる時間が持てるよう支援しており、毎日10時頃には、両ユニットの利用者全員が中庭に出て、遊歩道を散歩したり、畑の世話をしたり、バトミントン等を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファ、テーブルなどを置き自由に座れるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に家族には、出来るだけ以前使っていたものを持ってきていただくように説明し、本人が居心地良く生活できるようにしている。 仏壇を持ってきている方も居られる。	
			(外部評価) 居室は、ベッドとクローゼットが備え付けになっている。出窓に事業所で作った小物を並べた居室がみられた。居室で本を読んだり、CDプレーヤーを持ち込み、音楽を聞く利用者もある。机や椅子、たんす、テレビ、仏壇、お位牌、ご家族の写真等、利用者それぞれに馴染みのものや大切なもの等を持ち込み、又、カレンダーや時計、温度計、ご家族と一緒にの写真等、ご家族や職員が配慮して飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレのドアの前には、本人に合わせた文字、色で大きく文字を貼って分かりやすくしている。	